



このたびは、「DAIKEN製品」をご採用いただき
ありがとうございます。

- この説明書は、本製品の取扱い方法について説明します。
- ご使用前に「安全上のご注意」(2ページ)を必ず
お読みください。
- この取扱説明書に記載されている「**△ 警告**」と
「**△ 注意**」事項は、使用上重要な内容です。
本製品の性能と安全性を確保するために、よくお読み
いただき、正しくお使いください。
- 製品を廃棄する際は、法律および地方自治体の規則に
基いて適切に処理してください。
- お読みになった後は、いつでも利用できるように、
この取扱説明書を大切に保管してください。

もくじ

取 扱 説 明 書

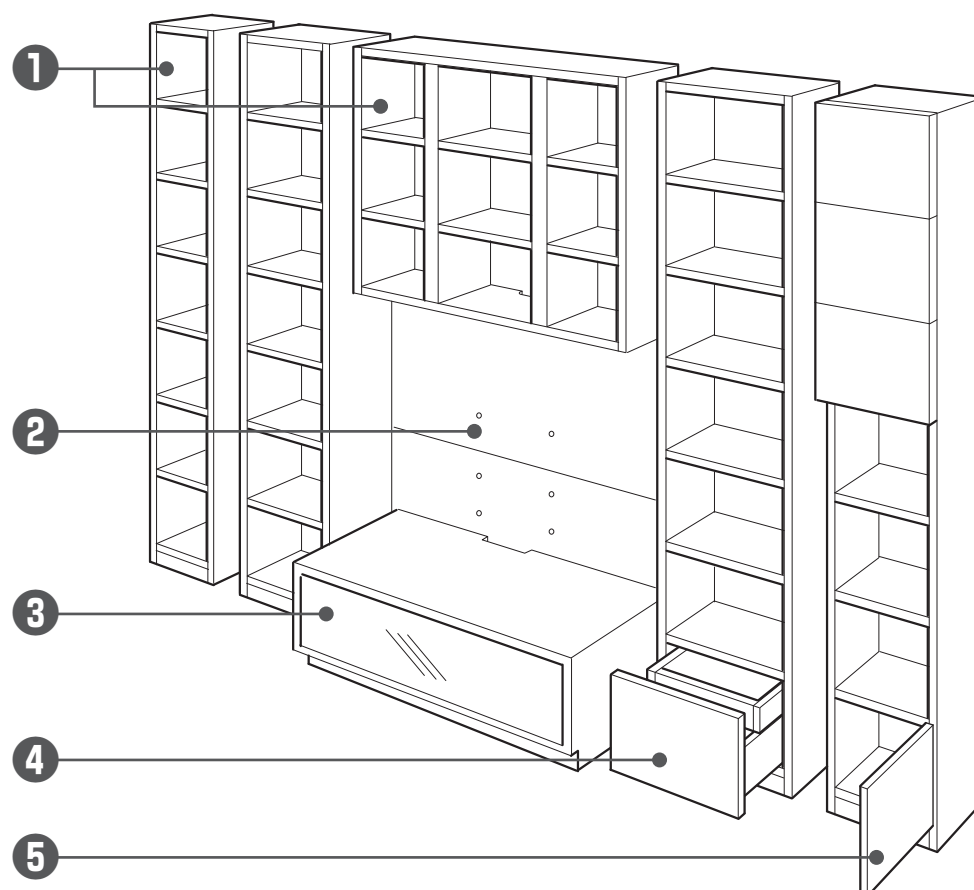
- | | |
|----------------------|----|
| 1. お使いになる前に…………… | 1 |
| 2. 基本ユニットの使いかた…………… | 4 |
| 3. バックパネルの使いかた…………… | 6 |
| 4. TVボードの使いかた…………… | 8 |
| 5. オプションの使いかた…………… | 11 |
| 6. 扉の調整のしかた…………… | 17 |
| 7. 耐震ロックの解除のしかた…………… | 21 |
| 8. お手入れのしかた…………… | 23 |



1. お使いになる前に

本書は、スタイリッシュ ファニチャー ミセルシリーズの共通説明書です。
お客様が購入された製品やオプション品などの記載ページをご確認のうえ、本書を活用してください。

各部のなまえ



① 基本ユニット (➡ 4ページ)	「床置きユニット」、「吊ユニット」など
② バックパネル (➡ 6ページ)	「壁掛けTV用バックパネル」、「据置きTV用バックパネル」など
③ TV ボード (➡ 8ページ)	「キャスタータイプ」、「コーナータイプ」など
④ オプション (➡ 11ページ)	「引出し」、「スライドカウンター」、「スラックスハンガー」、 「格納デスクユニット」、「ワゴンユニット」、「ダウンライト付固定棚」、 「コンセントユニット」など
⑤ 扉 (➡ 17ページ)	「開き扉」、「フラップ扉」など

各製品群についての詳細は、弊社ホームページでご紹介している
カタログ「スタイリッシュ ファニチャー ミセル」で確認できます。
大建工業HP (<http://www.daiken.jp/>)

安全上のご注意（必ずお守りいただきたいこと）

この説明書に書かれた注意事項は、あなたや他の人への危害や物的損害を防ぐためのものです。必ずお守りください。

警告表示の種類と内容

	警告	誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく可能性のある内容
	注意	誤った取扱いにより傷害または家屋・家財などの損害に結びつく内容

本文中に使われている図・記号の意味は次のとおりです。

	してはいけない内容です		必ず実行していただく内容です		留意事項、操作方法、使用・お手入れ方法など
---	-------------	---	----------------	---	-----------------------

警告

- ⊘ お客様で、製品の解体や移設・レイアウト変更をしないでください。

組立・施工が不十分ですと、破損や落下によりけがをする原因になります。必ずお買い上げの販売店、工事店にご相談ください。

注意

- ⊘ 乱暴な取扱いや収納家具としての用途以外の使用はしないでください。
けがや故障・破損の原因になります。
- ⊘ ストープなど火気を近づけて使用しないでください。
やけどや火災の原因になります。
- ⊘ 製品の上に立ち上がったり、足や腰を掛けたりしないでください。
また、もたれ掛かったり、ぶら下がったりしないでください。（特にお子様に注意してください。）
転倒や転落により、けがをする原因になります。
- ⊘ 製品に登らないでください。
棚が外れたり、本体が倒れて、けがをする原因になります。
- ⊘ 耐荷重を超えて、ものをのせたり収納したり、引っ掛けたりしないでください。
破損や脱落、ものの落下により、けがをする原因になります。
※各製品の耐荷重は、それぞれの説明ページに記載しています。
- ⊘ 引出しレールなど可動部に注油しないでください。
油がたれて床や衣類を汚す原因になります。
- ⊘ 製品の分解や改造をしないでください。
けがや故障の原因になります。

- ⊘ ボルトやネジがゆるんだまま使用しないでください。

本体の変形・破損や転倒により、けがをする原因になります。早めに締め直してください。

- ⊘ 製品に貼ってあるラベルを、はがさないでください。

誤った使いかたや事故を防止するためのものです。

- ❗ 引出しレールなどの可動部に、手や指、衣服などをはさまないように注意してください。
けがをするおそれがあります。

- ❗ キャスタータイプはフローリングで使用してください。

カーペットや畳で使用されると、キャスターがスムーズに動かないことがあり、床面が傷つくおそれがあります。

- ❗ 扉や引出し、スライドカウンターなどを開閉するときはゆっくりおこない、手や指、衣服などをはさまないように注意してください。
勢いよくおこなうと、けがや破損するおそれがあります。

- ❗ 棚板などが確実に取り付けられていることを確認してから、ものを収納してください。

外れかけていたり、ゆるんだ状態で収納すると、収納物が落下してけがをするおそれがあります。

- ❗ 固定されていないユニットを移動させる場合は、収納物を取り出してから移動させてください。製品本体および収納物、床などの破損のおそれがあります。

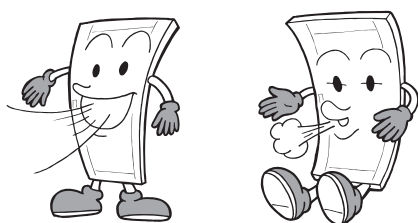
1. お使いになる前に

使用上のご注意

- 使用を開始してから、収納したものの重量や床の状態により、製品にゆがみが出て、垂直や水平でなくなったり、すき間が目立ったりすることがあります。各部の確認と調整をおこなってください。不具合が出たまま使用していると、故障の原因になります。
- この製品に以下のものを直接置かないでください。なべ敷など敷物を敷いてください。
 - ・ 熱い湯のみや加熱したなべ・やかんなど、熱を発するもの
 - ・ 金属や陶器など、硬いもの変色や変形、発火、傷がつく原因になります。
- ときどき、ボルトやネジのゆるみによるガタツキがないか点検し、ある場合は締め付けてください。
- この製品に以下のものをこぼしたままにしたり、収納したり、放置したりしないでください。水分は残らないように拭き取ってください。
 - ・ 飲み物などの水分、ぬれたもの
 - ・ ビニールなどの樹脂製品やゴム製品
 - ・ 入浴剤や毛染液など染料の強い薬剤
 - ・ 酸・アルカリ性溶剤、有機溶剤変色や変形、軟化、ひび割れ、反り、サビ、色移りの原因になります。

木質収納扉の反りについて

木材を原料とする木質材料【合板、パーティクルボード、MDF（ミディアムデンシティファイバーボード）など】を加工して作られた製品は、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は、温度、湿度などの環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、室内と収納内部の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。



「反り」の発生をできるだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

1. エアコン、暖房器具などをお使いになる場合は、製品に直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。
2. 夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房などにより、室内と収納内部の環境条件の差を極端に大きくしないでください。
3. 製品に直射日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、スダレなどを設けて日光を遮ってください。

発生した「反り」は、室内と収納内部の環境条件を近づけることによって、小さくなる場合があります。

2. 基本ユニットの使いかた

基本ユニットについて

基本ユニットには、床置きユニットと吊ユニットがあります。
自在棚を付替えることで、さらにフレキシブルに使用することができます。
収納するものや用途に合わせて、自在棚を移動させてください。

床置きユニット

床に置いて、壁面にビスで固定して設置されているユニットです。

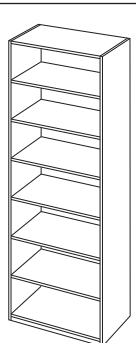
〈自在棚の数〉

床置きユニット

H1:なし、H2:1枚、H3・H4・H5:2枚、
H6:3枚、H7:4枚

床置きオープンユニット

H4:なし、H5・H6:1枚、H7:2枚



吊ユニット

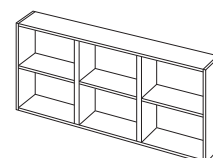
壁面にビスで固定されているユニットです。

〈自在棚の数〉

H1:なし

H2:1枚 (W1200以上は3枚)

H3・H4:2枚



⚠ 注意

- ① 耐荷重（棚板に均等にものを置いた場合：右表）を超えて、棚板にものを収納しないでください。

破損や脱落、ものの落下により、けがをする原因になります。

- ② AV機器を設置する際は、壁面やユニットとの間にすき間を設けてください。

すき間の寸法は、AV機器に付属の説明書を参照してください。

十分なすき間がないと、ユニット内に熱がこもり、火災や変色、変形のおそれがあります。

耐荷重一覧表（棚板）

奥行	幅	W400	W533	W800
D200・D300・D450		10 kg	10 kg	20 kg
D600		20 kg	20 kg	40 kg

コーナー用	縦	横
	10 kg	20 kg

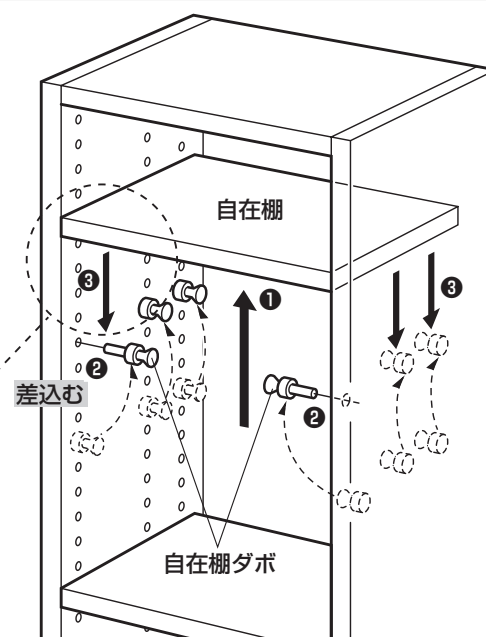
※ 吊ユニットの棚板の耐荷重は全て10 kgです。

自在棚の付替えかた

自在棚ダボの取付位置を変えることで、自在棚を32mmピッチで付替えることができます。

- 自在棚を持ち上げて取外す。
- 自在棚ダボを外し、使い勝手のよい位置に差込む。
- 自在棚のシステム金具を、自在棚ダボに合わせて取付ける。

自在棚の取付けかた



2. 基本ユニットの使いかた

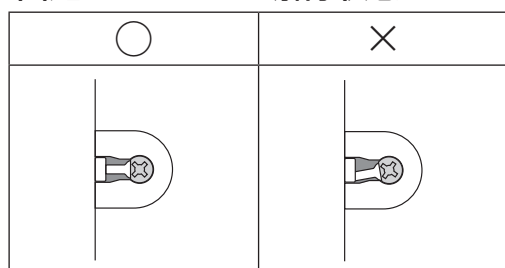
固定棚の移動のしかた

⚠ 注意

- ⊘ ユニットの強度が弱くなるため、固定棚を取外したままにしないでください。
位置を変えても必ず取付けてください。

1. 固定棚裏面のすべての固定ネジを、反時計回りに回してロックを解除する。

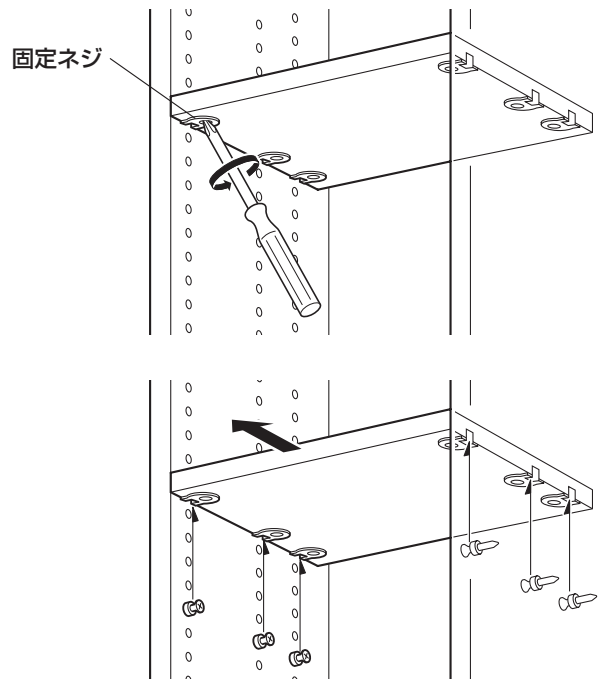
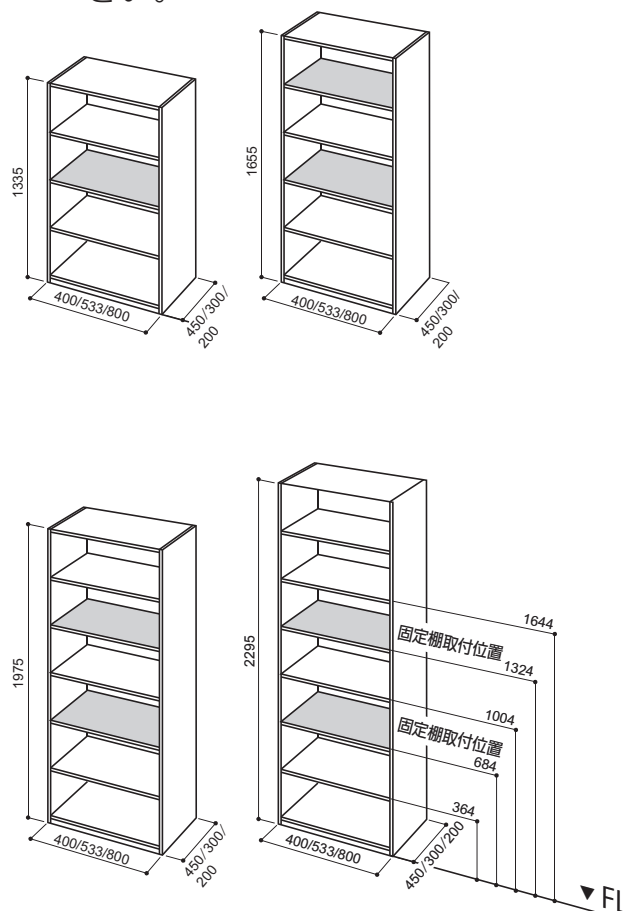
固定ネジのロック解除状態



2. 固定棚を持ち上げて取外す。

固定棚の推奨範囲

固定棚の間隔は天板、底板を含めて内寸620mm以下で設置してください。

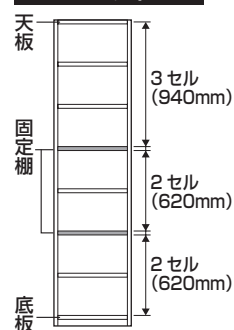


⚠ 注意

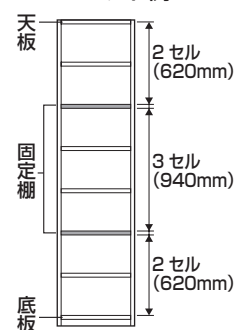
以下の内容を守らないと、強度不足のためユニットがガタついたり、倒れたりしてケガをするおそれがあります。

- ❗ 固定棚の位置は、天板・底板・固定棚の間隔が3セル（棚板の内寸940mm）以上離れないようにしてください。

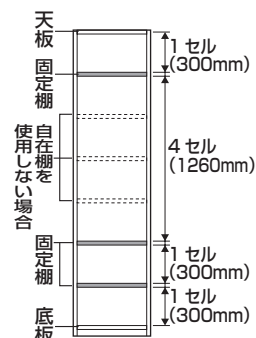
固定棚推奨位置のユニット



固定棚を移動したユニット例



- ❗ 天板・底板・固定棚の間に自在棚を使用しない場合は、固定棚どうしの間隔を最大4セル（棚板の内寸1260mm）以内にしてください。（製品には必ず自在棚が付属しています。）



3. 組立用ピンを外す。

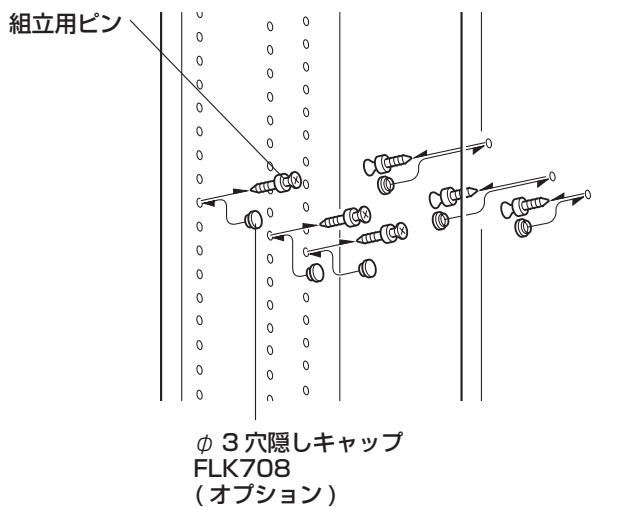
4. 穴隠しキャップを、組立用ピンを外した穴に取付ける。

※ 組立用ピンを外した穴は大きくなったり、バリが発生したりします。バリが発生した場合は、φ3穴隠しキャップFLK708(40個入/オプション)を取付けてください。

⚠ 注意

⊘ 組立用ピンを外したダボ穴を、再度使用しないでください。

穴が大きくなっているので、使用中に固定棚が外れるおそれがあります。



3. バックパネルの使いかた

バックパネルについて

バックパネルには、壁掛け用と据置き用があります。

⚠ 警告

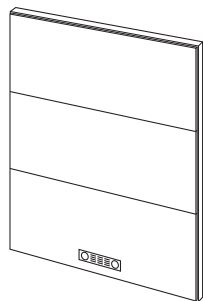
❗ AV機器の端子カバーを必ず取付けてください。
端子部にほこりが溜まり、火災の原因となるおそれがあります。

⚠ 注意

⊘ 据置き用バックパネルに壁掛けTVを取付けしないでください。
壁掛け金具を保持する下地材がないため、破損・落下してけがをする原因になります。

壁掛けTV用バックパネル

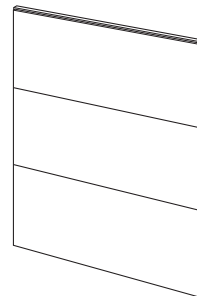
TVを壁掛けで使用する場合のバックパネルです。



パネル内に配線を通すことができます。
※ 「壁掛けTV用バックパネル」に同梱されている施工説明書の使用上のご注意を参照してください。

据置きTV用バックパネル

TVを据置きで使用する場合のバックパネルです。



TVの転倒防止用として、TV固定用ワイヤーを同梱しています。

転倒防止セット内容

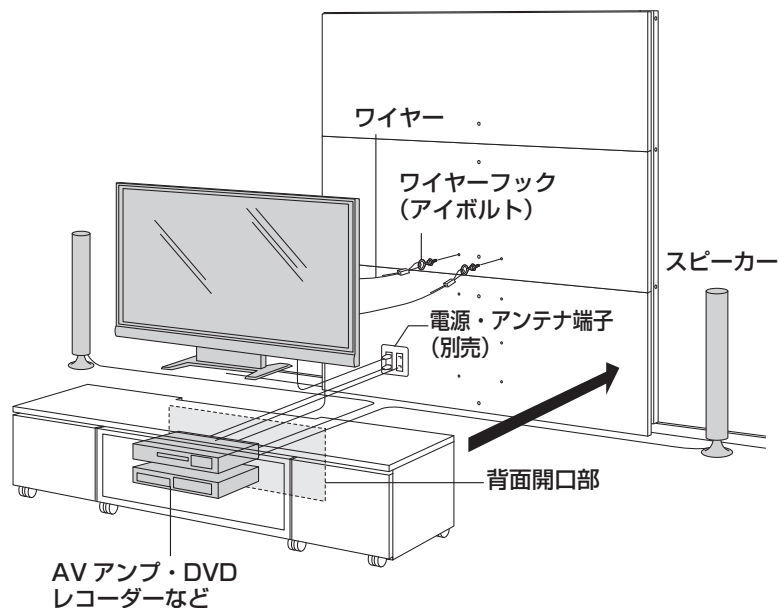
ワイヤー (L=1000 mm)	ワイヤー 固定金具	ワイヤー フック	キャップ
2本 (端部キャップ付き)	2個	2個	8個

3. バックパネルの使いかた

TVを据置きTV用バックパネルに固定用ワイヤーで固定する

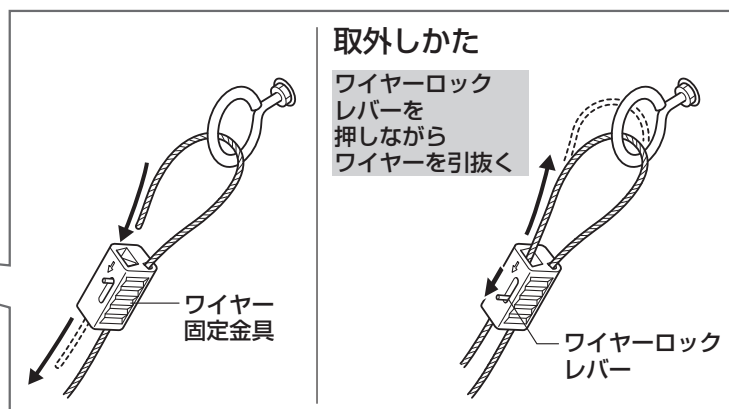
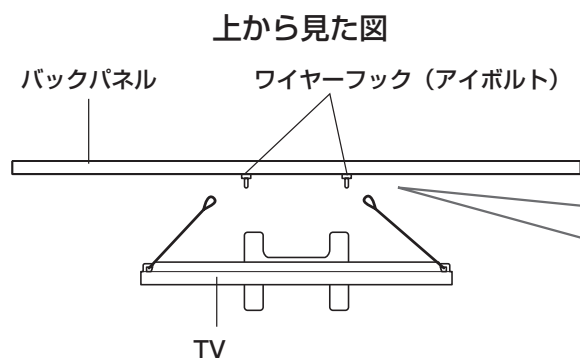
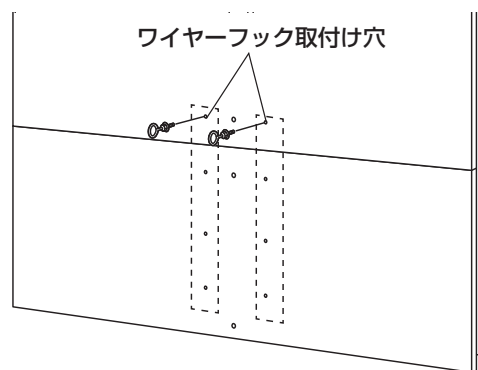
⚠ 注意

- ❗ 地震などによるTVの転倒や落下を軽減するために、TVをバックパネルに必ず固定してください。
- ❗ 据置きTV用バックパネルを使用する際は、必ず付属の転倒防止金具を固定してください。
TVが転倒してけがや破損するおそれがあります。



固定のしかた

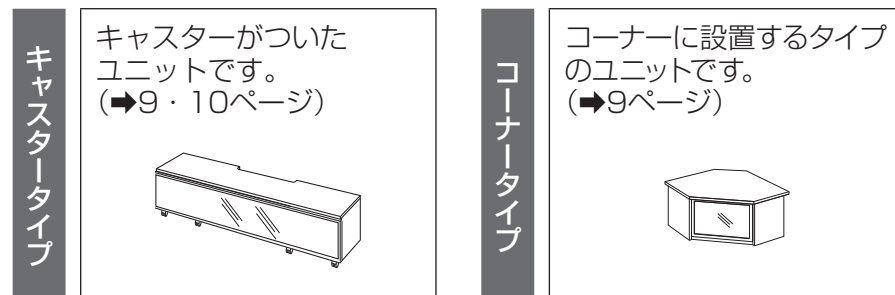
1. TVをTVボードなどに設置する。
※TVに付属の説明書を参照し、正しく設置してください。
2. ワイヤーフックをバックパネルに取付ける。
※TVのサイズやTVボードの高さに合わせて、ワイヤーフックを適切な高さに取付けてください。
3. ワイヤーフックを取付けない穴にキャップを取付ける。
4. ワイヤーをTVに取付ける。
※ワイヤーの固定位置については、TVに付属の説明書を参照してください。
5. ワイヤーをワイヤーフックに固定する。



4. TVボードの使いかた

TVボードについて

TVボードには、キャスタータイプ・コーナータイプがあります。
お買い求めのTVボードを確認してください。



⚠ 警告

- ❗ AV機器の端子カバーを必ず取付けてください。
端子部にほこりが溜まり、火災の原因となるおそれがあります。

⚠ 注意

- ⊘ 耐荷重（全体に均等にものを収納した場合：下表）を超えて、本体にものを収納しないでください。
破損してけがをする原因になります。

耐荷重一覧表（TVボード共通）

品名	高	幅	カウンター部	棚板部	底板部
コーナーTVユニット	H1/H2	723	30 kg	10 kg	20 kg
TVボード キャスタータイプ	H1/H2	800	20 kg	20 kg	20 kg
	H1	1200	40 kg	10 kg	10 kg
		1400	60 kg		
		1600			
TVボード システムタイプ	H1	533	40 kg	10 kg	10 kg
		800	60 kg	20 kg	20 kg
		1200	60 kg		
		1400			
		1600			
フロートTVボード	H1	800	30 kg	10 kg	10 kg
		1200	40 kg		
		1400			
		1600			

※ 耐荷重はすべて均等荷重時の数値です。

- ❗ TVを替える場合は、各TVボードに設置できるTVかどうかを確認してください。
TVによっては重量が耐荷重を超え、設置できない場合があります。

4. TVボードの使いかた

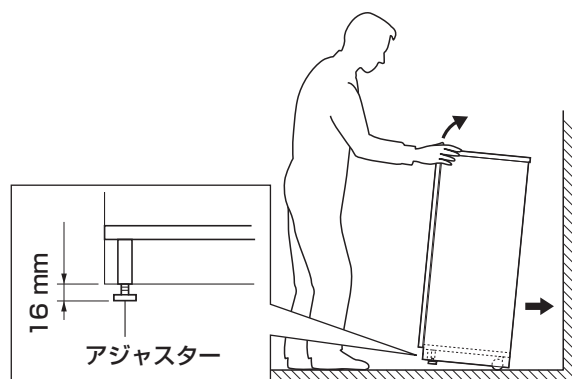
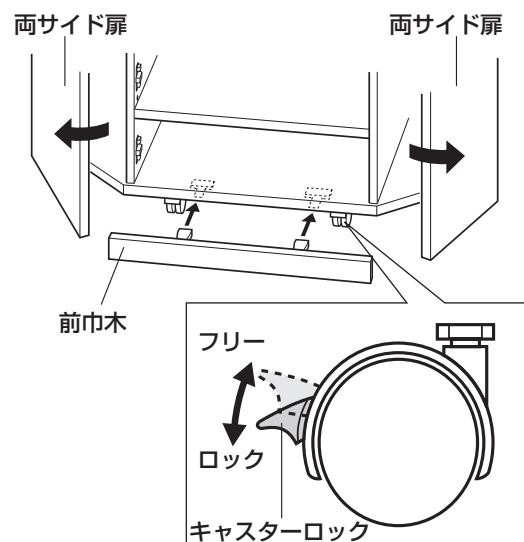
キャスタータイプ (W800・D320) /コーナータイプのTVの設置と配線

TVを設置する

⚠ 注意

- ❗ 必ず2人以上で作業してください。
TVは重量物ですので、1人でおこなうと、落下してけがをするおそれがあります。
- ❗ TVなどの重量物をのせたまま、移動させないでください。
キャスターの故障や床に傷がつくおそれがあります。

1. TVボード下部の前巾木を取外す。
※ コーナータイプの場合は扉を開いてから前巾木を取外してください。
2. キャスターのロックを解除する。
3. キャスタータイプを移動させる際は、前側にアジャスターがあるので、手前を持ち上げておこなう。
コーナータイプを移動させる際は、そのままおこなう。
4. TVボードが水平になるように、アジャスターを調節してください。
5. TVを設置する。
※ TVに付属の説明書を参照して、正しくTVを設置してください。



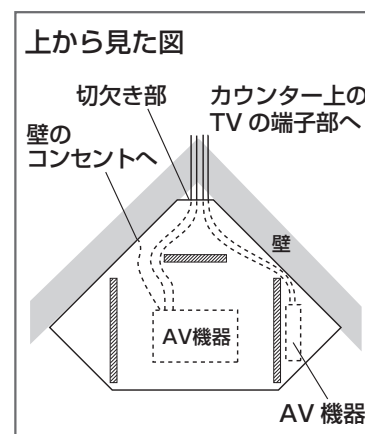
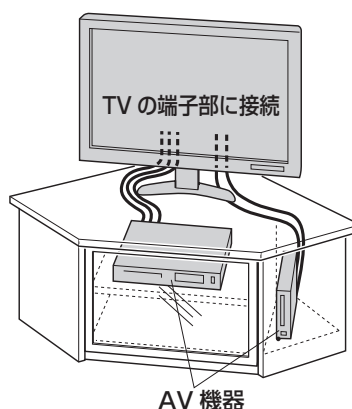
配線する

- 機器のコードをTVボード内部に通して、天板後部の切欠きからTVへ配線する。
- ※ キャスタータイプ (W800・D320) には天板後部の切欠きはありません。
 - ※ コーナー用背面収納を設置している場合は、TVボードを移動させてから配線してください。

⚠ 注意

配線や掃除の際にTVボードを手前に引出すときは、以下の内容を守らないと、コードや部材が破損するおそれがあります。

- ❗ 引出す前に、前巾木を取外してください。
- ❗ まっすぐ引出してください。



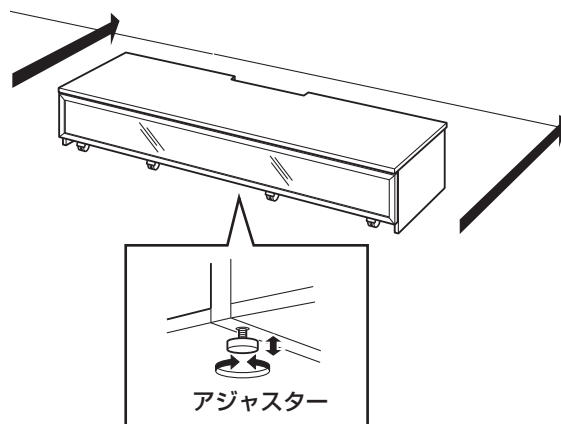
キャスタータイプ (W1200～) のTVの設置と配線

TVを設置する

⚠ 注意

- ❗ 必ず2人以上で作業してください。
TVは重量物ですので、1人でおこなうと、落下してけがをするおそれがあります。

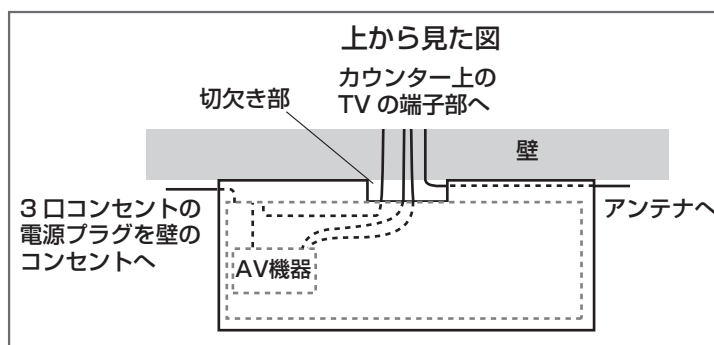
1. TVボードを移動させる。
2. TVボードが水平になるように、底面中央のアジャスターを調節してください。



配線する

AV機器との接続

機器のコードをTVボード内部に通して、天板後部の切欠きからTVへ配線する。



電源コードの接続

電源コードを天板後部から通して、TVボード内部のコンセントに接続する。
※3口まで接続できます。

お願い

3口コンセントの電源プラグは壁面と天板のすき間 (10mm) から壁面のコンセントに接続してください。

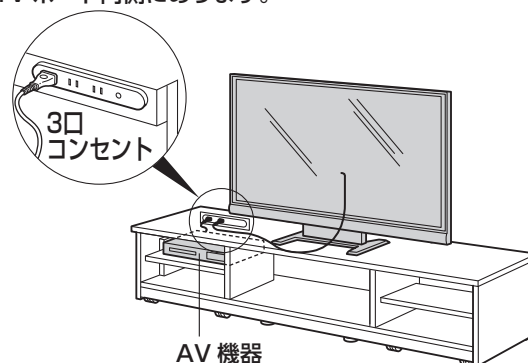
⚠ 警告

- ❗ コンセントにゴミやホコリが附着しないように、定期的に掃除してください。
火災やショート・漏電・感電のおそれがあります。

⚠ 注意

- ❗ 配線や掃除の際にTVボードを手前に引出すときは、まっすぐ引出してください。
コードや部材が破損するおそれがあります。

TVボード内側にあります。



5. オプションの使いかた

オプションについて

MiSELシリーズにはさまざまなオプションを用意しております。
用途に合わせて追加することができます。下図は代表的なものです。
詳しくは、大建工業HPをご確認ください。
大建工業HP <http://www.daiken.jp/>

引出し	引出しタイプのユニットです。 (➡12ページ)	スライドカウンター	引出しタイプの棚です。 (➡12ページ)	スラックスハンガー	ハンガータイプの棚です。 (➡12ページ)
	※ 施工業者による、取付工事が必要です。		※ 施工業者による、取付工事が必要です。		※ 施工業者による、取付工事が必要です。
コンセントユニット	コンセントが付いているタイプのユニットです。 (➡16ページ)	格納デスクユニット	開くと机になるユニットです。 (➡15ページ)	ダウンライト付固定棚	ダウンライトが付いているタイプのユニットです。 (➡16ページ)
	※ 施工業者による、取付工事が必要です。		※ 施工業者による、取付工事が必要です。		※ 施工業者による、取付工事が必要です。

⚠ 注意

- ⊖ 耐荷重(全体に均等にものを収納した場合：下表)を超えて、本体にものをのせたり、収納したりしないでください。
破損や落下してけがをする原因になります。

引出し

奥行	幅	W400	W533	W800
D300		5 kg	5 kg	10 kg
D450		5 kg	5 kg	10 kg
D600		5 kg	5 kg	10 kg

※ 小分けタイプも同じです。

スライドカウンター

奥行	幅	W400	W533	W800
D300		10 kg	10 kg	20 kg
D450		10 kg	10 kg	20 kg

スラックスハンガー

奥行	幅	W400	W533	W800
D600		5本	8本	10本

格納デスクユニット

奥行	幅	W800
D300		10 kg
D450		10 kg

※ デスク部・棚板の耐荷重です。

引出し/スライドカウンター/スラックスハンガーの使いかた

⚠ 注意

- ❗ スライドカウンターの上で、炊飯器を使用する場合は引出して使用してください。
蒸気や熱により製品が変形・変色するおそれがあります。
- ⊘ スライドカウンターの上で、ミキサーやフードプロセッサーなど、振動するものを使用しないでください。
落下して、けがや破損の原因になります。

取外しかた

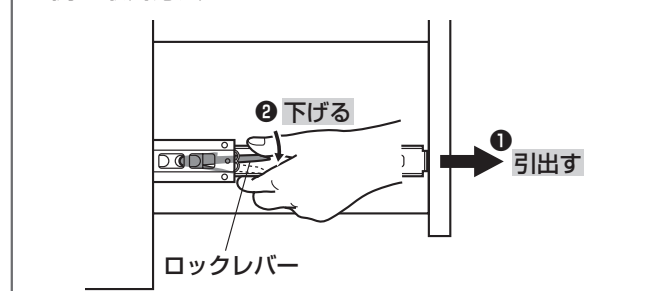
〈標準引出し・内引出し・プッシュオープン機能付引出しの場合〉

※イラストは引出しの場合ですが、スライドカウンターやスラックスハンガーの場合も要領は同じです。

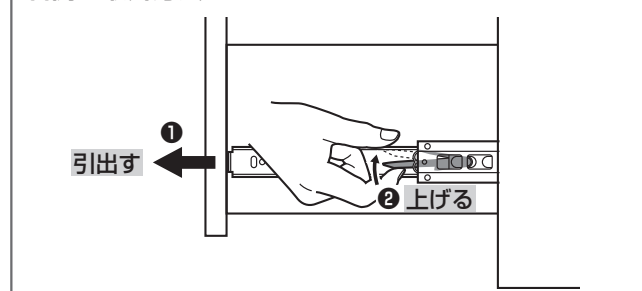
引出し/スライドカウンター/スラックスハンガーは、取外しできます。
以下の要領で取外してください。

1. 引出しを引出す。
2. ロックレバーを上げる
(左側は下げる)。

左側の取外方法

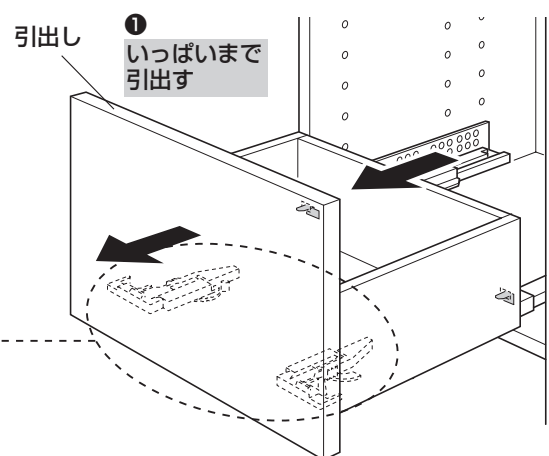
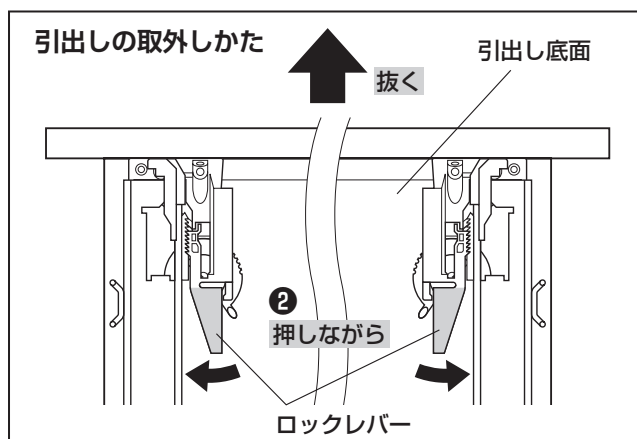


右側の取外方法



〈ラクラクローズ付きの場合〉

1. 引出しをいっぱいまで引出す。
2. 引出し底面のロックレバーを押しながら、引出しを抜く。



5. オプションの使いかた

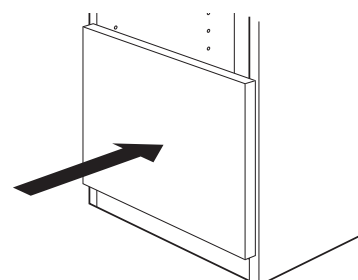
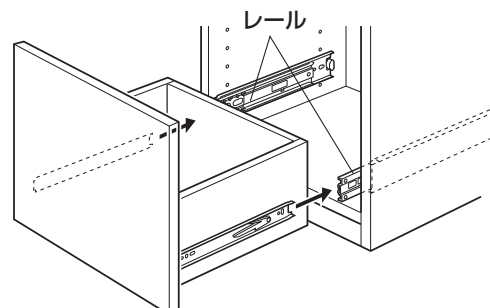
取付けかた

〈標準引出し・内引出し・プッシュオープン機能付引出しの場合〉

※イラストは引出しの場合ですが、スライドカウンターやスラックスハンガーの場合も要領は同じです。

引出し/スライドカウンター/スラックスハンガーを以下の要領で取付けてください。

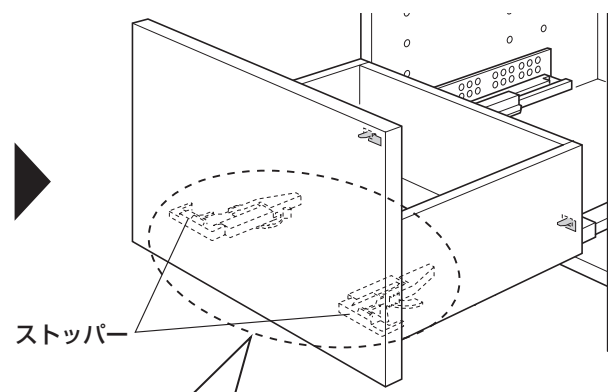
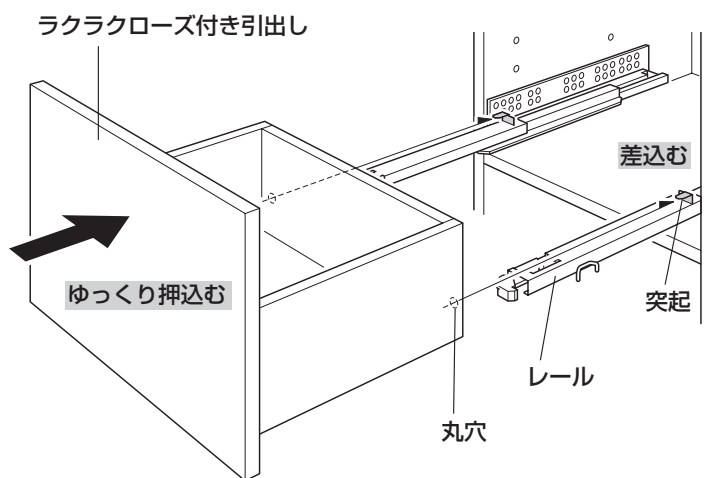
1. 引出しのレールを本体のレールに入れる。
2. 引出し本体をゆっくり押し込む。
※ 押し込んだ後、2、3回開閉して固定されたことを確認してください。



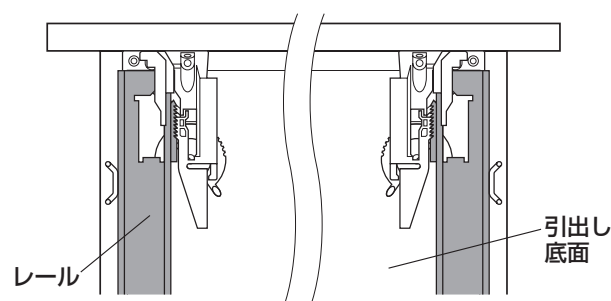
〈ラクラクローズ付きの場合〉

ラクラクローズ付きの取付け

引出し背面の丸穴をレールの突起に差込み、引出し本体をレールにのせ、押し込む。

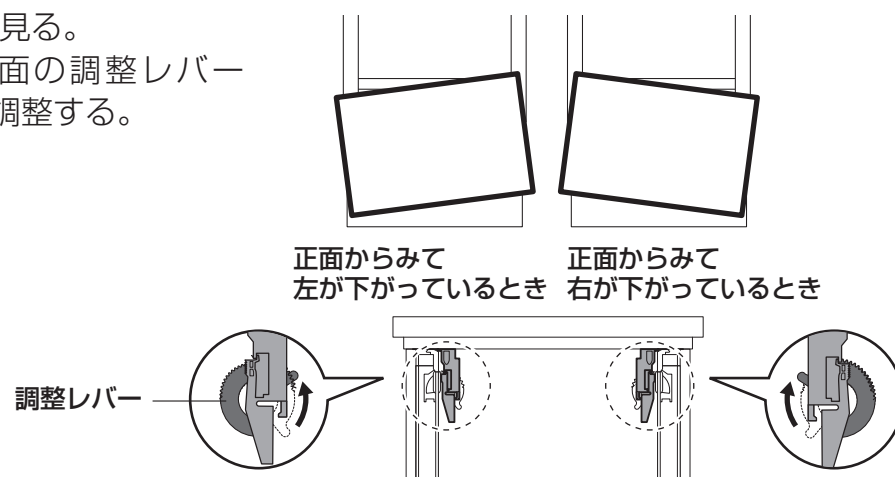


レールとストッパーがかみ合っていることを確認する



ラクラクローズ付き引出しの調整方法

1. 引出しを閉めて傾きを見る。
2. 引出しを引出して底面の調整レバー(緑)を回して、傾きを調整する。



5. オプションの使いかた

格納デスクユニットの使いかた

扉の開閉の重さを調整することができます。

⚠ 注意

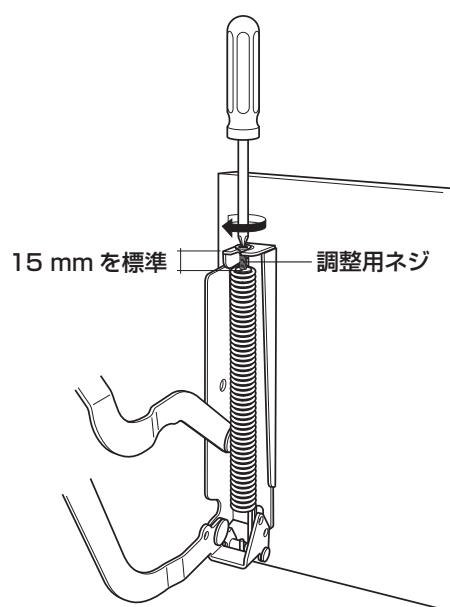
- ⊖ デスクの上でミシンなどの振動するものを使用しないでください。
落下してけがや破損するおそれがあります。(耐荷重: 10kg)

スイングアップ扉（上扉）の調整のしかた

- スイングアップ扉を開く。
- スイングアップ扉の左右にある調整用ネジを回してスイングアップ金具バネの力を調整する。
調整用ネジを時計回りに回すと、バネの力が強くなります。
調整用ネジを反時計回りに回すと、バネの力が弱くなります。

お願い

- 扉が自然に開いてきますので、バネの力を弱くしすぎないでください。
- 左右の調整用ネジを同じ調整量にしてください。
バランスが悪いと、扉が傾いたり、うまく開閉できなくなります。

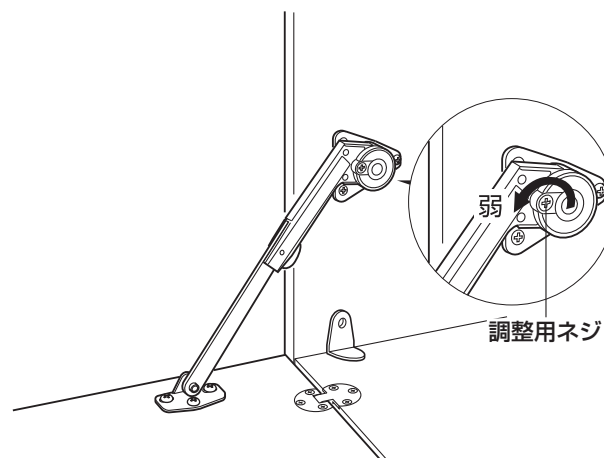


デスク扉の調整のしかた

- デスク扉を開く。
- デスク扉の左右ステーにある調整用ネジをプラスドライバーで回して金具バネの力を調整する。
調整用ネジを時計回りに回すと、バネの力が強くなります。
調整用ネジを反時計回りに回すと、バネの力が弱くなります。

お願い

- 扉が外れますので、バネの力を弱くしすぎないでください。
- 左右の調整用ネジを同じ調整量にしてください。
バランスが悪いと、扉が傾いたり、うまく開閉できなくなります。



ダウンライト付固定棚/コンセントユニットの使いかた

⚠ 警告

- ⊖ ダウンライト付固定棚やコンセントユニットの周囲に水に濡れたものを放置しないでください。
感電や火災が発生する原因になります。
- ⊖ ダウンライトの下100 mm以内にものを置かないでください。
熱により発火する原因になります。
- ❗ コンセントにゴミやホコリが付着しないよう、定期的に掃除をしてください。
火災やショート・漏電・感電のおそれがあります。

ランプの交換のしかた

ランプは下記と同様のものを電器店もしくはホームセンターなどで購入してください。

⚠ 警告

- ⊖ 指定外のランプを取付けしないでください。
火災ややけどの原因になります。
- ⊖ 水に濡れた手で交換しないでください。

MiSELダウンライト固定棚用ランプ（キャビネットランプ）
販売元 NEC

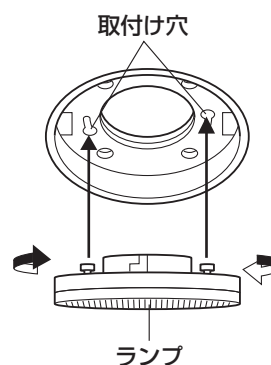
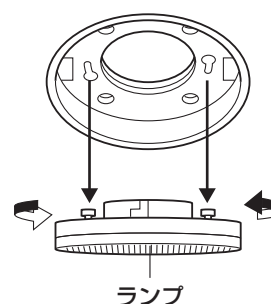
品番	LDF5L-H-GX53
光色	電球色（3000K）
全光束	460
定格寿命	40000時間
寸法	外径 φ75 mm / 厚み 24.5 mm
質量	70 g

1. ランプをしっかりと持ち、反時計回りに回し取外す。

⚠ 注意

- ❗ ランプは、必ず電源を切った状態で交換してください。
 - ・ ラジオなど音響機器の近くでは、雑音が入る場合があります。このような場合は、ランプから1 m以上離して使用してください。
 - ・ 使用済みのランプを廃棄するときは、お使いの地域の自治体の指定する方法で廃棄してください。

2. 新しいランプを取付け穴にはめ込んでから、時計回りに「カチッ」と音がするまで回して固定する。



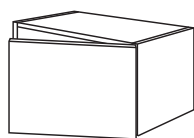
6. 扉の調整のしかた

扉について

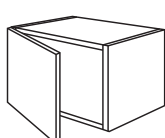
使用していると年月の経過とともに、扉がガタついてきたり扉どうしのすき間が目立ってきたりします。その場合は、以下の方法で扉の丁番を調節し、扉の位置を調整してください。

開き扉

左右に開くタイプの扉です。



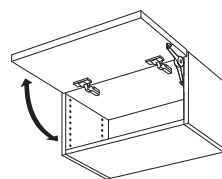
右開き



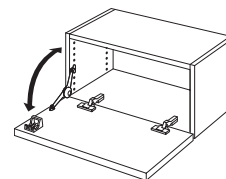
左開き

フラップ扉

上下に開くタイプの扉です。(→19ページ)



上開き

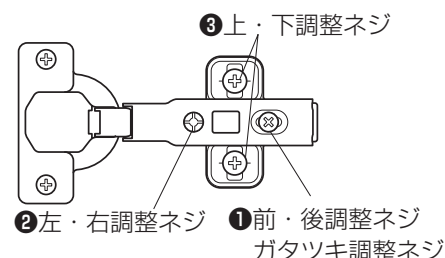
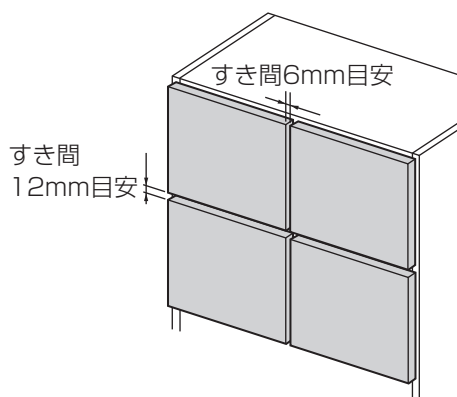


下開き

開き扉の調整のしかた

扉どうしのすき間について

- 扉どうしの上下のすき間は、12mmが標準です。
12mmよりせまいと、扉を開閉する際に指が入りにくくなります。
- 扉どうしの左右のすき間は、6mmが標準です。



丁番の調節のしかた

現象	調整箇所	処置
前後の位置ズレ 	① 前・後調整ネジ	前・後調整ネジをゆるめ、扉の前後位置を調整後、締直してください。
左右の位置ズレ 	② 左・右調整ネジ	前・後調整ネジを締めた状態で、左・右調整ネジを回して、扉の左右位置を調整してください。
上下の位置ズレ 	③ 上・下調整ネジ	上・下調整ネジをゆるめて扉の位置を調整した後、締直してください。

⚠ 注意

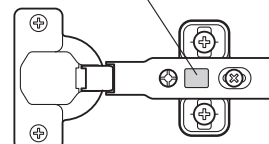
- ❗ 扉を調整したあとは、耐震ロックも調整してください。(→20ページ)
調整をおこなわないと耐震ロックが正常に動作しないおそれがあります。

ラクラクローズダンパー(FLK711-1/オプション)の取付かた

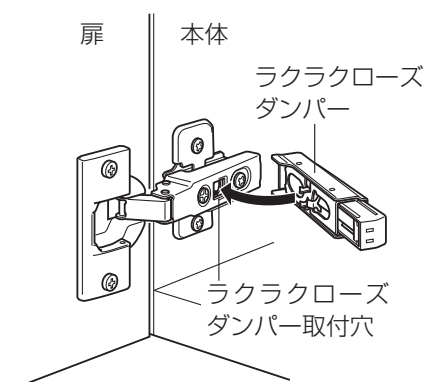
ラクラクローズダンパーを取付けることで、扉を閉める際の音をやわらげることができます。下記の手順で取付けてください。

1. ラクラクローズダンパー取付穴の位置を確認する。

ラクラクローズダンパー
取付穴

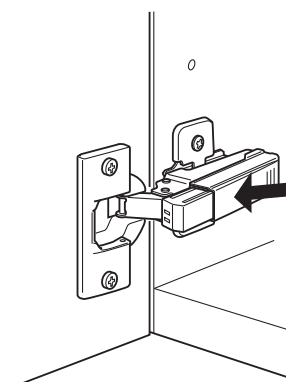


2. 扉を開いた状態にしてから、丁番のダンパー取付穴にラクラクローズダンパーを当てる。



3. 「パチン」と音がするまで奥に押し込むようにはめ込む。

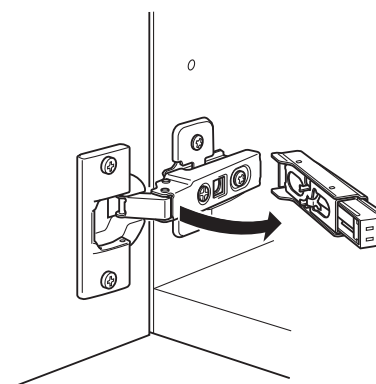
※ 扉を2、3回開閉し、動作を確認してください。



ラクラクローズダンパーの外しかた

ダンパーの先を内側にはね上げると外れます。

- ※ 1段用扉にも取付は可能ですが、扉が小さいためダンパーが効きすぎる場合があります。
- ※ 3段用高さ以上扉の場合はダンパーを上下に2つで使用ください。



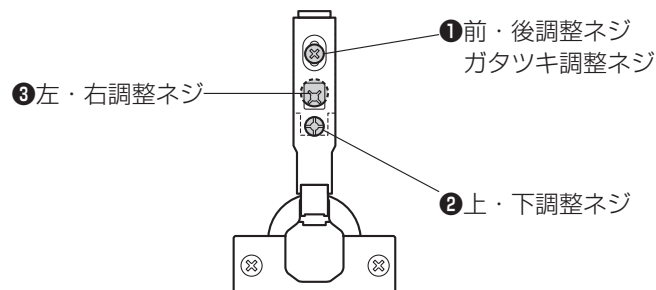
6. 扉の調整のしかた

フラップ扉の調整のしかた ※イラストは下開きタイプです

丁番の調節のしかた

扉が正常に開閉でき、扉のゆがみがないか確認してください。

調整は、丁番本体のネジでおこないます。



現象	調整箇所	処置
前後の位置ズレ 		前・後調整ネジをゆるめ、扉の前後位置を調整後、締直してください。
上下の位置ズレ 		前後調整ネジを固定したままで、上・下調整ネジを回して、扉の上下位置を調整してください。
左右の位置ズレ 		前後調整ネジを固定したままで、左・右調整ネジをゆるめて、扉の左右位置を調整した後、締直してください。

ステーのブレーキ具合の調整

扉がスムーズに開閉するように、調整用レンチを使用して調整してください。

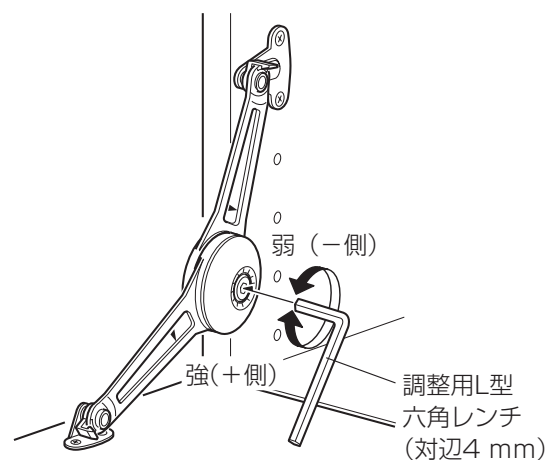
⚠ 注意

❗ フラップ扉は経年により開閉力が弱まってきますので、定期的に付属の六角レンチで調整してください。

弱めすぎると、扉が急に開いたり、ステーが外れたりしてけがをするおそれがあります。

❗ 下開きタイプの扉を調整したあとは、耐震ロックも調整してください。(⇒20ページ)

耐震ロックが正常に動作しないおそれがあります。
※上開きタイプには耐震ロックは取付けできません。

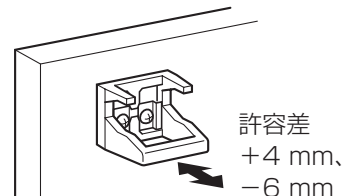
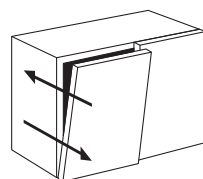


耐震ロックの調整のしかた

扉を調整した後は、以下の手順で耐震ロックも調整してください。

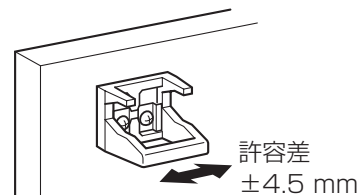
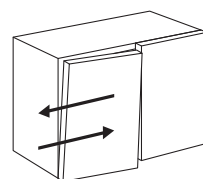
扉の前後を調整した場合

前・後調整ネジをゆるめて扉を調整した場合は、受座開口部奥行き方向の許容差が+4 mm、-6 mmありますので、調整の必要がない場合がほとんどです。



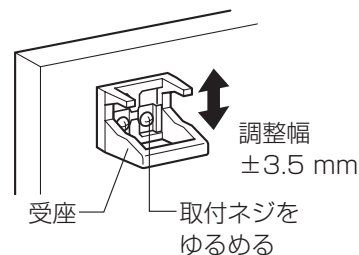
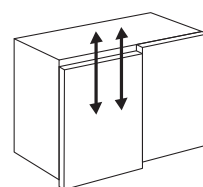
扉の左右を調整した場合

左・右調整ネジを回して扉を調整した場合は、受座開口部幅方向の許容差が、±4.5 mmありますので、普通は調整の必要がありません。必要な場合は、受座をずらして取付け直してください。



扉の上下を調整した場合

上・下調整ネジを回して扉を調整した場合は、受座の取付ネジをゆるめて、受座を上下に動かして調整してください。
また、扉を閉めたときに受座がロックしてしまうときは、受座を少し下げて固定してください。



◆ 耐震ロックの使用上のご注意

⚠ 注意

〈耐震ロックについて〉

- ① 耐震ロックは収納用キャビネットの扉や引出しに取付け、地震などの振動によって扉や引出しが開くのを軽減するロック装置です。それ以外の目的で使用しないでください。
- ② 耐震ロックは、すべての振動に対して有効ではありません。振動の方向や収納キャビネットの設置条件によって、扉や引出しが開くことがありますので、十分に注意してください。
- ③ 収納物を出し入れする際、頭や顔に耐震ロックの受座が当たらないように注意してください。けがをするおそれがあります。

〈振動発生時や発生後について〉

- ① 振動（地震など）発生時、速やかに収納キャビネットから離れて、安全な場所に避難してください。扉や引出しのすき間から、不安定な収納物や小さな収納物、破損した収納物などが落下してけがをするおそれがあります。
- ② 振動（地震など）発生後に扉を開ける際、収納物が落下してくることがあります。扉を少しだけ開いてみて、収納物が扉などに寄りかかっていないか確認してから扉を開けてください。収納物が落下してけがをするおそれがあります。
 - ※ 耐震ロックは振動発生時にロックがかかりますが、振動が治まるとロックは自動的に解除されます。ロックが解除されない場合は、P.21「7.耐震ロックの解除のしかた」を参照し、ロックされている扉を解除してください。収納物によっては、少し扉が開いた状態でロック状態になることがありますが、扉を閉め直すとロックは解除されます。

〈耐震ロックの取扱いについて〉

以下の内容を守らないと、正しく動作しなかったり、変形や故障の原因になります。

- ① 分解や改造をしないでください。
- ② 高温多湿の場所に長時間放置しないでください。
- ③ 過剰な衝撃や力を加えないでください。



7. 耐震ロックの解除のしかた

この製品の引出しと開き扉には、地震などでユニットがゆれた際に、引出しや開き扉が開かないようにロックするための耐震ロックが取付けられています。ユニットに当たるなど、衝撃を与えたりすると耐震ロックがかかってしまう場合がありますので、以下の要領で解除してください。

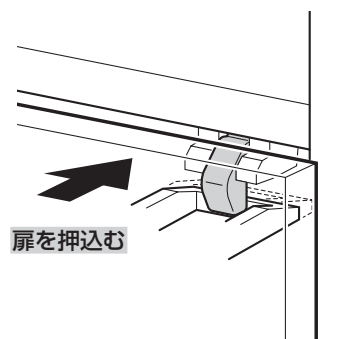
〈開き扉の耐震ロックの解除のしかた〉

• ロック解除のしかた

収納物が倒れて扉に寄り掛かったり、はさまるなどして、扉が閉まっていない場合にロックが解除できない仕組みになっています。

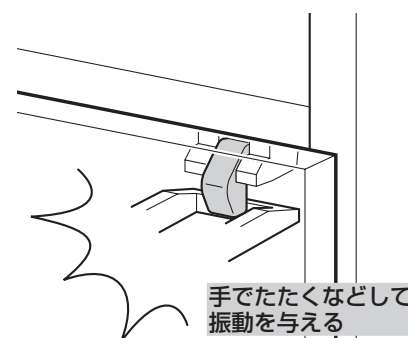
いったん扉を閉めきることで、ロックが解除されます。

寄り掛かったりはさまったりしている収納物が落下しないように注意しながら扉を開けてください。



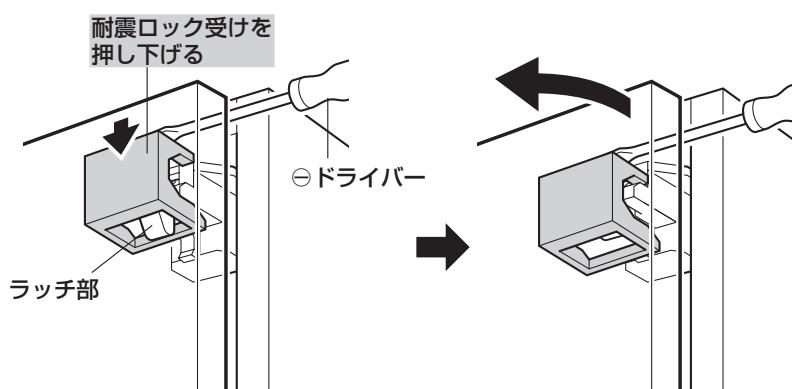
• ロックの強制解除のしかた〈1〉

扉のラッチ付近を手でたたくなどして振動を何回か与えて2～3秒してから、ゆっくり扉を開きます。



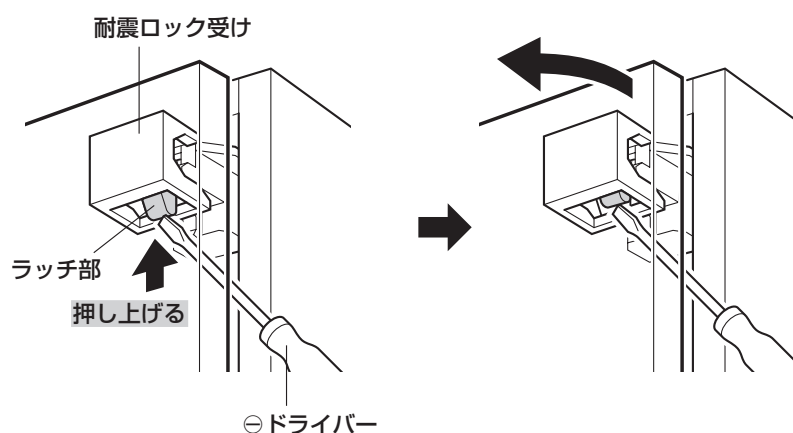
• ロックの強制解除のしかた〈2〉

1. ロックが掛かっている扉を開く。15mm程度のすき間が開く。
2. ⊖ドライバーなどで耐震ロック受けを押下げ、ロックを解除する。
3. 耐震ロック受けを押下げながら扉をゆっくり開く。



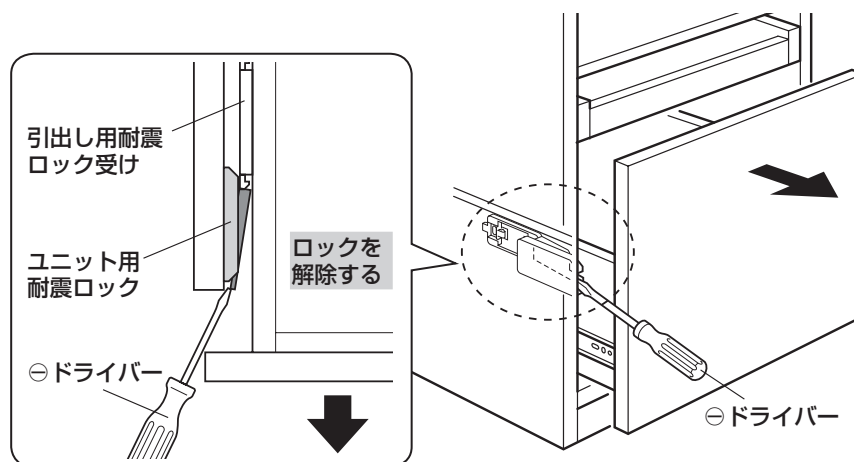
・ ロックの強制解除のしかた〈3〉

1. ロックが掛かっている扉を開く。15mm程度のすき間が開く。
2. ⊖ドライバーなどでラッチ部を押し上げロックを解除する。
3. ラッチを押し上げながら扉をゆっくり開く。



〈引出しの耐震ロックの解除のしかた〉

引出しとユニットのすき間に⊖ドライバーを差込み、ユニット用耐震ロックのロックを解除して引出しを抜く。



⚠ 注意

- ❗ ロックの強制解除では、外部から強制的に力を加えます。
強制解除後の耐震ロックは本来の機能が損なわれていることがありますので、そのまま使用しないでください。必ず新しい耐震ロックに交換してください。

8. お手入れのしかた

日常のお手入れ

⚠ 警告

❗ コンセントを使用している場合は電源プラグを抜いて、コンセントにゴミやホコリが付着しないように定期的に掃除をしてください。

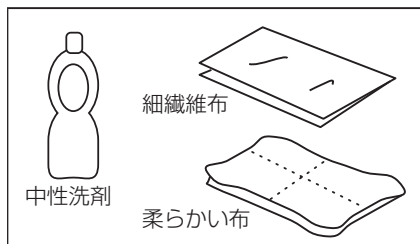
火災やショート・漏電・感電のおそれがあります。

- ・日常のお手入れは、乾拭きしてください。
- ・汚れが著しい場合は、うすめた中性洗剤につけた雑巾を固く絞って拭いた後、水分が残らないように乾拭きしてください。

◆ 汚れを落とすときのご注意

酸、アルカリ性洗剤やアルコール、シンナー、ベンジンなどを使用しないでください。
表面のツヤがなくなったり変色する恐れがあります。

使える洗剤と道具



使ってはけない洗剤と道具



フレーム扉のお手入れ

● フレーム

アルカリ性・酸性系の洗剤は避けてください。

● 表面材〈ガラス製〉(スモーク・ミスト色)

割れる場合がありますので取扱いには十分注意してください。

汚れが著しい場合は、うすめた中性洗剤につけた雑巾を固く絞って拭いた後、水分が残らないように乾拭きしてください。

鏡面扉のお手入れ

傷がつきやすいので取扱いには十分注意してください。

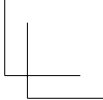
指紋や手あかは、細繊維のお手入れ布（OA機器用など）で、拭いてください。

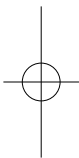
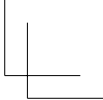
定期的な点検項目

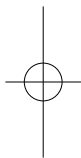
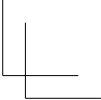
※ 製品の長期間の使用にともない、部品などが劣化（経年劣化）を生じ安全上支障が出るおそれがあります。

経年劣化による重大事故を防止し、製品を長く安全にご使用いただくために、お客様自身による以下の点検を実施いただきますよう、お願いします。

点検部位	点検項目	兆候有無	対応方法	経年劣化進行にともなう具体的な事象
扉	扉がスムーズに開閉できるか。 丁番にガタツキがあるか。	無・有	丁番の交換。	扉の落下。 丁番の変形や破損。
引出し	引出しがスムーズに開閉できるか。 引出しレールにガタツキがあるか。	無・有	レールの交換。	引出しの落下。 引出しレールの変形や破損。
引出し (ラクラクローズ付)	引出しの閉まるスピードが著しく変化していないか。	無・有	レールの交換。	引出しレールのオイルもれによる収納物の汚れ。
棚板	棚板の傾き、垂れ下がりはあるか。	無・有	棚板の交換。	棚板の落下。 棚受ダボの変形や抜け。







DAIKEN製品の品質保証について

弊社では、下記対象製品について、「保証期間一覧表」に示す期間、保証事項に記す内容に基づき、無料で修理させていただきます。

保証期間経過後の修理については有料となります。

■対象製品

スタイリッシュファニチャー ミセル

■保証事項

通常的环境下にて、弊社の施工説明書・取扱説明書に準じた正常な施工・使用がなされている状態（前提条件）で、弊社の責任に起因する製品不具合（保証期間一覧表参照）を無料で修理します。

なお、本内容は日本国内においてのみ有効です。

※修理とは、壊れたり傷んだりした部分に手を加えて、再び使用できるようにすること。
（原則、新品交換は含みません）

■保証期間

弊社製品の施工完了後、または物件の引渡後に生じた、弊社の責任に起因する製品の不具合を無料で修理する期間としております。（保証期間一覧表参照）
保証期間経過後の修理については有料となります。

保証期間一覧表

保証事項	保証事項		保証期間	
	保証箇所	保証対象となる不具合現象	起算時期※2	
使用上の著しい※1支障が生じないこと	扉、引出し、本体	作動不良（故障）	引渡後	2年
外観上の著しい変形・変質が生じないこと		変形、変質（反り、ハガシ、クラック）		

※1:「著しい」の定義

正常な施工・使用状態のもとで経過時間を考慮し、客観的に見て通常の状態から逸脱している度合いが極めて大きいことをいいます。

※2:保証期間起算時期について

保証事項が“使用”に係るものについては、保証期間を“物件引渡後”から起算します。それ以外のものについては、“当該製品施工完了後”から起算します。

■免責事項

・製品の不具合原因が次のような場合には、保証期間内であっても保証対象外になります。

- 1) 建物の設計・施工に起因する不具合
- 2) 施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合
- 3) 自然現象・周辺環境など（※1）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れまたはその他の不具合
- 4) 室内であっても部屋内外の温湿度差が著しく違う部位に取付けられたことに起因する不具合
- 5) 極端に乾湿を繰り返したり、著しく高温・多湿となる部位に取付けられたことに起因する不具合
- 6) 建物自体の変形、入居後における増改築や改修等に起因する不具合
- 7) 入居者または第三者の不適切な使用または維持管理などに起因する不具合
- 8) 取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗、磨耗、破損、変形などによる不具合
- 9) 経時変化による通常一般的に当該保証対象品の変色、汚れ、さび、かび、劣化磨耗などの不具合
- 10) 用途外に使用された場合の故障および損害（例えば、一般家庭用を業務用に、屋内用を屋外に使用された場合など）
- 11) 犬・猫・鳥・鼠などの小動物の害に起因する不具合やキウイムシなどの虫害に起因する不具合
- 12) 仕上げ面のキズなどの不具合で引渡し時に申し入れがなかった場合
- 13) 保証期間経過後の申し出、または不具合発生後速やかに申し出がなかった場合
- 14) 製造時に実用化されていた技術では予測することが不可能な事象に起因する不具合
- 15) 離島などの遠隔地への出張を要する修理をおこなう場合、出張に要する実費
- 16) その他当該不具合の発生が弊社の責によらない場合

※1: 火災・地震・水害・落雷などの天災地変や、公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

ユーザー登録サービス

製品を末永く安全にご使用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや暮らしに役立つ情報をDAIKENからご連絡する際に、利用させていただきます。

ユーザー登録は無料です！！

登録はこちらから

<http://www.daiken.jp/user/>

ユーザー登録いただいた方は、次の特典が受けられます

特典 パーツショップ製品10%割引

ご登録いただくと、DAIKENのパーツショップ取扱製品を通常価格の10%割引でご購入いただけます。

お問い合わせ窓口について

●製品に関するお取扱い、補修、工事などのご相談は、組立て・設置業者、工務店へ。

製品に関するお問い合わせ

DAIKENお客様センター

☎0120-787-505

（フリーダイヤル）

●受付時間…平日9:00～17:00

（土・日・祝日・年末年始・お盆はお休みをいただいています）

修理・交換部品のご購入の方は

DAIKENパーツショップ

部品のネット販売サイトです。

<http://www.daiken.jp/service/>

DAIKENホームページ ▶

お客さまサポート ▶

▶▶▶▶

DAIKENパーツショップ

ご相談窓口における
個人情報のお取扱い

大建工業株式会社および大建工業グループ各社は、当社「個人情報の取扱いに関する方針（プライバシーポリシー）」に則ってお客様に関する個人情報を利用させていただく場合がございます。（大建工業株式会社プライバシーポリシーに關しましては、当社ホームページに掲載しております。）なお、電話での相談に対し、折り返し電話をさせていただくためにナンバーディスプレイを採用しています。またご相談内容を正確に把握し、適切に対応するために、通話内容を録音させていただくことがあります。

大建工業株式会社

DAIKENのホームページアドレス <http://www.daiken.jp/>

発行

2019年8月